

関東形成外科学会 第299回東京地方会プログラム
2021年3月6日(土) 11:00 ~ 2021年3月7日(日) 17:00

開催場所：Web上特設サイトにて

※日本形成外科学会マイページ (<https://mypage.sasj2.net/jsprs/login>) にログイン後、特設サイトへのリンクをアクセスいただき (アクセスキーが必要となります)、演題を視聴してください。

今回の学術集会は、

「開催期間中に特設サイトへアクセスし、演題を1演題以上視聴した」

方を参加者として取り扱わせていただきます。

参加証については上記記録が認められた方へ、学会名簿に登録いただいているメールアドレスへ3月8(月)以降、順次事務局よりお送りさせていただきます。

また、今回の学術集会では領域講習が開催されます。

(開催概要は後述のプログラムをご確認ください)

こちらについては事前申込を必要とします。

3月3日(水) までに関東形成外科学会事務局の下記連絡先まで下記のように申し込みのメールを送り、下記の口座まで受講料1,000円を入金ください。

【申し込みメール送信先】

tpsr-office01@shunkosha.com

【申し込みメール例】

件名：領域講習受講希望

本文：関東形成外科学会第299回東京地方会中に開催される領域講習に参加希望します。

(氏名) 形成 太郎

(入金日) 3月1日(月)

【受講料入金先口座】

~~~~~

銀行名 (みずほ) 支店名 (本郷)

普通 口座番号 (4019891)

口座名義人 (関東形成外科学会)

口座名義人フリガナ (カントウケイセイゲカガッカイ)

~~~~~

【発表演題一覧】

① 交通外傷後に生じたカンジダ性肋軟骨炎の一例

- 1) 群馬大学医学部附属病院 形成外科
- 2) 群馬大学医学部附属病院 歯科口腔・顎顔面外科

○中村英玄¹、牧口貴哉¹、平井優樹¹、山津幸恵¹、正田晃基¹、横尾 聡²

カンジダの骨・軟骨への感染は稀である。我々は交通外傷後に生じたカンジダ性肋軟骨炎を経験した。

2 度の腐軟骨除去を伴うデブリードマン、局所皮弁形成術により創治癒が得られた。肋軟骨の組織培養では *Candida albicans* が検出され、カンジダ性肋軟骨炎と診断した。カンジダ性肋軟骨炎は重症感染症や、外傷などを契機として発症することがある。難治性胸部皮膚潰瘍を認めた際は、本疾患も鑑別の 1 つとして考慮する必要があると考えられた。

② 虚血性足部壊死切断後の創面環境調整に対し周期的持続灌流併用局所陰圧閉鎖療法 (NPWTid) を行う際に、クレンズ CHOイスフォームを使用した治療経験

- 1) 群馬大学医学部附属病院 形成外科
- 2) 群馬大学医学部附属病院 歯科口腔・顎顔面外科

○正田晃基¹、牧口貴哉¹、中村英玄¹、平井優樹¹、山津幸恵¹、横尾 聡²

【症例 1】54 歳男性。左足部横断的中足骨離断術、断端形成術を行った。術後 8 日に創縁から壊死が進行し、術後 14 日に NPWTid を開始した。術後 45 日に分層植皮術を行った。【症例 2】73 歳男性。右足部リスフラン関節離断を行った。術後 4 日に NPWTid を開始したが、術後 22 日に創部感染が疑われ中止した。その後ショパール関節離断を行った。虚血趾切断後のクレンズ CHOイスフォーム使用の適応と方法を考察する。

③ 乳房再建における組織拡張器が露出した一例

東京共済病院

○頌彦尚、中江星子

症例は 37 歳女性。右乳がんに対し乳頭乳輪温存皮下乳房全切除術、組織拡張器（以下 TE）挿入術を施行した。術後 2 ヶ月後、D 領域の壊死を主訴に受診された。壊死組織除去により TE が露出し縫合での創閉鎖が困難と判断したため抜去した。後日小さめのシリコンインプラントを挿入し感染予防の為に持続陰圧洗浄を 6 日間行った。現在は明らかな感染や壊死は認めていない。今後はボリューム不足を補うため脂肪注入などを検討している。

④ 栄養障害型先天性表皮水疱症を合併した唇顎口蓋裂の児に対し口唇鼻形成術および口蓋形成術を施行した一例

昭和大学藤が丘病院 形成外科

○大嶋美喜子、大久保文雄、住永莉華子、門松香一

先天性表皮水疱症は皮膚・粘膜への軽微な機械的刺激により水疱・びらんを形成し、気管内挿管ではチューブ挿入による声門下狭窄を生じると対応が難しいとされている。さらに体表の手術についても上皮化の遅延が見込まれる。今回われわれは栄養障害型先天性表皮水疱症を合併した唇顎口蓋裂の児に対して気管挿管・全身麻酔下に口唇鼻形成術を行った症例を経験したため、術中・術後の経過について報告する。

⑤ 膝に発生したグロムス腫瘍の1例

木下整形・形成外科

○大場有矢、西村礼司、木下行洋、宮脇剛司

34歳男性。約1年前から続く膝外側部の疼痛を主訴に受診した。触診上では圧痛を伴う約5mmの皮下腫瘍を認めた。MRI上では腫瘍を確認できなかった。診断的治療目的に摘出を行なった。術後から疼痛は消失し、病理検査でグロムス腫瘍と診断された。グロムス腫瘍は爪下に好発するが、極めて稀な膝のグロムス腫瘍を経験したため報告する。

⑥ 指尖部 tumoral calcinosis の一例

千葉大学医学部附属病院

○山口華、窪田吉孝、山田香穂子、松原友貴、金井雅彦、川上真央、安田紗緒里、新井美波、緒方英之、秋田新介、三川信之

Tumoral calcinosis は関節周囲に腫瘍様の広範な石灰沈着をきたす比較的稀な疾患である。今回我々は手指に発生した tumoral calcinosis に対して摘出術により良好な結果を得た一例を経験した。症例は70歳女性。63歳時より緩徐に増大する手指の硬結を自覚した。精査の結果、特発性の tumoral calcinosis と考えられ、68歳時より摘出術を施行した。現時点で再発は認めておらず経過良好であることから、再発の可能性はあるものの、外科的治療を検討して良いと思われた。

⑦ 頭蓋骨に発生した parosteal lipoma の一例

1) 独立行政法人 国立病院機構 災害医療センター 形成外科

2) 東京女子医科大学 形成外科

○森下恵里¹、藤原 修¹、高田 怜¹、櫻井裕之²

Parosteal lipoma は骨膜と親密な関係を持ち、時に骨性変化を伴う良性の脂肪新生物であり、その報告は比較的少ない。今回、頭蓋骨部に発生した症例を経験したので、文献的考察を加え報告する。症例は38歳男性。幼少期より頭頂部に皮下腫瘍を認め、増大傾向のため切除術を施行。病理組織検査で、内部に層状骨形成を伴う脂肪腫の所見を認め、同診断に至った。術後経過は良好で、現在再発は認めていない。

⑧ 臍部毛巣洞の1例

北里大学メディカルセンター

○大関亮介、土田理子、馬場香子

症例；45歳男性 主訴；臍部疼痛。現病歴；疼痛と排膿を認め受診した。体表エコー検査では体表から皮下に高信号領域を認め、MRIで同部に炎症像を認めた。手術；体毛が迷入する瘻孔開口部と腫瘤を一塊に切除した。腫瘤の底部は皮下組織であった。病理組織学検査で毛巣洞と診断された。考察；臍部毛巣洞は本邦の報告では13例と稀であるが、臍部腫瘍の鑑別に挙げられるべき疾患である。

⑨ 無乳房症を伴う Poland 症候群に対し、乳房および乳頭・乳輪再建を施行した1例

東京医科大学病院 形成外科

○小曾根琢真、小宮貴子、松村一

症例は18歳女性。Poland 症候群の診断で、左大胸筋欠損、同側の無乳房症を認めた。エキスパンダーとインプラントを用いた人工物再建を行い、その後 clover flap 法局所皮弁、およびタトゥーにて乳頭・乳輪再建を行った。さらにインプラント周囲に脂肪注入を追加し、整容的に満足する結果を得た。Poland 症候群において乳房低形成は多く報告されているが、乳頭・乳輪欠損を伴う無乳房症は極めて稀なため、文献的考察を含めて報告する。

⑩ 仙骨前面に発生した気管支原生嚢胞の一例

東京臨海病院 形成外科

○渡辺晃大

仙骨前面に発生する腫瘍性病変には、皮様嚢胞、類表皮嚢胞、奇形腫などが多い。一方、気管支原生嚢胞は主に前胸部に形成される良性腫瘍である。今回、われわれは仙骨前面に生じた腫瘍性病変に対して手術を施行し、病理学的検査の結果、気管支原生嚢胞と診断された一例を経験した。われわれが検索しうる限りでは同様の症例は3例しか報告例がなく、極めて稀な病態と思われるため、若干の文献的考察を交えつつ報告する。

⑪ 低周波治療器(iPES)を用いた難治性皮膚潰瘍に対する低周波電気治療

日本大学医学部附属病院板橋病院 形成外科

○正岡鷹、松田由佳利、宮下采子、菅原隆、吉田光徳、榎村勉、菊池雄二、副島一孝

慢性創傷を低周波電流で刺激すると創面への線維芽細胞の遊走・集積が促進され創収縮効果が得られるという報告がある。今回われわれは難治性皮膚潰瘍に対して低周波治療器 iPES (伊藤長短波株式会社)を用いて治療を行い、治療前後の潰瘍面積について retrospective に検討を行った。全例において創収縮効果が得られ、特に腱や骨の露出を伴い本来治療に難渋する症例に対しても本法により創閉鎖が得られた症例を経験したので報告する。

⑫ 左頬部 SCC 切除後に有茎側頭筋膜弁と分層植皮で再建を行った1例

1) 那須赤十字病院 形成外科

2) 東邦大学医療センター佐倉病院 形成外科

3) さいたま市立病院 形成外科

○高山昌賢¹、松浦直樹²、浅野友里³

症例は91歳女性。左頬部のSCCに対して全身麻酔下で切除術を行った。側方marginは10mmとし、深部は頬骨骨膜下で切除を行った。広範囲に頬骨が露出した欠損部に対して、浅側頭動脈を茎とする有茎側頭筋膜弁と分層植皮で再建を行い、良好な結果が得られたので、若干の文献的考察を加えて報告する。

⑬ 若年者に発症した非典型的脂肪腫症の2例

1) 独立行政法人国立病院機構 東京医療センター 形成外科

2) 独立行政法人国立病院機構 東京医療センター 皮膚科

○佐野里紗¹、的場恵理¹、岡愛子¹、平田恵理¹、雪野祐莉子²、落合博子¹

Multiple Symmetric Lipomatosis (MSL) は被膜を伴わない多発性の脂肪腫がほぼ対称性に生じる疾患で、アルコール多飲歴のある中高年男性に好発する Madelung 病もその一種である。今回私たちは、飲酒歴を有さない24才女性の後頸部と19才男性の臀部に発症した対称性脂肪腫症を経験した。臨床症状からMSLの非典型例に該当すると考えられたため、若干の文献的考察を加えて報告する。

⑭ コロナ禍における大学病院で増えた疾患・減った疾患

1) 群馬大学医学部附属病院 形成外科

2) 群馬大学医学部附属病院 歯科口腔・顎顔面外科

○平井優樹¹、正田晃基¹、中村英玄¹、山津幸恵¹、牧口貴哉¹、横尾聡²

日本形成外科学会による「新型コロナウイルス感染症への形成外科診療の対応について」の声明が発表され、地域や施設の現状により待機可能手術の延期が提言された。群馬大学医学部附属病院において、2019年と2020年におけるNCDの実績集計を比較すると明らかに増加した分類は腫瘍であり、減少した分類は先天奇形であった。医療圏の背景から症例数の変化について考察する。

【領域講習】

講演名：コロナ感染下における形成外科の位置・役割と展望

講演内容：Covid-19 感染流行により形成外科の診察環境は大きく変化しつつある。形成外科は緊急疾患と待機可能疾患、良性と悪性疾患、先天性疾患と後天性疾患などの様々な疾患を治療対象とし、治療対象年齢も幅が広い。Covid-19 感染流行によって、患者には程度に差こそあれ診療に対する行動変容と意識変容が生じている。変化する社会情勢に応じて、われわれ形成外科医も診療に対する適切な行動変容と意識改革を模索する必要があると考えられる。

講師として形成外科の臨床、教育、学会運営に豊富な経験を持つ二人の演者に

Covid-19 感染流行時の形成外科の立ち位置と役割，また感染消退後における形成外科の展望も含めて講演して頂き，受講者も交えて今後の形成外科診療について勘案する。

進 行 : 牧口 貴哉 (群馬大学 形成外科)

演 者 名 : 橋川 和信 (神戸大学 形成外科)

元村 尚嗣 (大阪市立大学 形成外科)

開催日時 : 2021 年 3 月 6 日 17:00~18:00

※Live 配信のみ、後日のオンデマンドはありません、事前申込必要

開催場所 : 特設サイト内の Zoom の URL より

申込方法 : 本プログラムの 1 ページ目にある通り、3 月 3 日 (水) までに学会事務局まで参加希望メールを送信し、指定口座への入金を済ませる事
【締切り厳守】

以上

----------*-----*-----*

〒169-0072 東京都新宿区大久保 2-4-12

新宿ラムダックスビル 9F

関東形成外科学会事務局

中島 駿一

TEL : 03-5291-6231 FAX : 03-5291-2176

E-MAIL tprs-office01@shunkosha.com

----------*-----*-----*